

# 第 24 期（令和 2 年度）

## 事業計画

（令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで）

### 1. 経営方針

#### 1) 基本方針

- ①全ての来訪者から愛される日本一の日帰り温泉施設を目指します。
- ②来訪者の安全と快適性を最優先し、清潔で明るい温泉施設として、質の高いサービスと、心身の癒しが体感できる施設を目指します。
- ③川根温泉が地域の核となり、地域の行事やボランティア活動に積極的に関わりをもち、地域貢献を目指します。
- ④温泉の魅力を活用するための調査研究及び啓発活動を行い、誘客事業につなげていきます。

#### 2) 行動指針

- ①安全な場所、やすらぎを感じる空間を作り出すために安全を最優先します。
- ②相手の立場にたった、親しみやすく、心を込めたおもてなしをします。
- ③旺盛な探究心、好奇心を持ち、創意工夫を心がけます。

### 2. 事業活動方針

#### 1) 事業展開のビジョン

川根温泉ふれあいの泉は、開設から 21 年が経過しました。これまで市民の皆様をはじめ、多くの方々にご愛顧いただき、ピークの平成 14 年度には年間約 44 万 3 千人の入館者をお迎えするなど、地域活性化の拠点施設として、確固たる地位を築き上げてまいりました。

一方、温泉を取り巻く環境は年々大きく変わってきており、常連客の高齢化と川根地区の人口の減少、同一商圏内への同業施設の開業による利用客の分散化、さらには施設の老朽化などが相まって、入館者数は右肩下がりに減少しています。そして、今後も急激な高齢化と人口減少が予想される中で、これをV字回復させることは非常に難しいことです。

川根温泉は、県内一の泉質と湧出量を誇りますが、認知度は決して高くはありません、静岡県の温泉地といえば、熱海、伊東をはじめとする県東部や舘山寺温泉を有する県西部が有名ですが、県中部地域にも大井川水系や安倍川水系に優れた温泉地が数多くあります。

利用者のニーズが多様化する中で、単一の温泉施設だけで人を呼び込むことには限界があります。

点ではなく、面で情報発信することで、発信力を高めて、県中部の温泉地ひいては川根温泉の認知度を高めることに力を注いでいきます。

県中部地域という大きな面（エリア）での情報発信に加えて、島田エリア、川根エリアでの情報発信にも注力してまいります。

島田エリアでは、ばらの丘公園、川越遺跡、厄なし茶屋、島田ゆめ・みらいパークといった施設との相互連携を図るとともに、「アウトレットモール」や「KADODE OOIGAWA」といった観光施設、大型商業施設と連携することで、市内を周遊させる取り組みを進めていきます。

また、川根エリアでは、特産の川根茶や乗馬、パラグライダー、カヌーなどの魅力的な観光資源を活かし、川根温泉を核として、地域の関係者との連携を強め、こうした観光資源を体験メニュー化することで、多くの観光客を取り込んでまいりたいと考えています。

厳しい経営状況の中、現状に見合う制度改革を進めながら、当施設の原点である「健康増進」「地域振興」「交流促進」を今一度強く意識しながら、「日本一の日帰り温泉施設」を目指していきます。